2）宇都宮城攻防戦の状況～安塚の戦い

1868年（慶応4年）4月19日大鳥軍宇都宮城攻略．大鳥軍主力は鹿沼泊．同4月20日第一次救援隊壬生に到着．大鳥軍宇都宮に入る．同4月21日夜旧幕府軍600名は宇都宮城から7キロ南の幕田村に陣地を築き，新政府軍500名はその南の安塚に陣を構築した．同4月22日安塚の戦い．新政府軍穿刺16名，負傷43名，旧幕府軍60余名，負傷78名．新政府軍の負傷兵が壬生城に運ばれ，手当を受けていたが，大鳥軍の別働隊に急襲され，土佐藩の小荷駄兵糧方の軍夫役夫などが壬生城を捨てて逃げた．

同4月23日新政府軍宇都宮城奪回．同4月24日旧幕府軍今市（現栃木県日光市）に到着．同4月25日大鳥圭介日光に入る．同4月27日板垣退助壬生に到着．4月28日土佐藩隊壬生を発し，鹿沼に宿泊．4月29日大鳥ら日光退去．瀬川十文字（現栃木県日光市）の戦いで大鳥軍が土佐藩に敗れ，会津へ逃走．

3）土佐藩病院について

1868年（慶応4年）2月14日に土佐藩は病院組織として医師10名，歩卒（衛生兵）30名を出していた．壬生城に入った土佐藩の兵員は230名程度，医師は5名，歩卒0名であった．治療は当初壬生城内で行われたが，安塚の戦いでは仮病院が安塚の本陣に作られ，その後は壬生城近隣の宿泊施設で治療が行われた．

4）壬生城内の女性看病人

弘田親厚著『慶応四戊辰　会津征討日記　弐の巻』の記載四月廿四日「銃創看病人として此地の婦人九人雇入養生局に差置ける」とあり，1868年（慶応4年）4月24日に銃創による傷病兵の看護のために女性を9人雇用したことが分かる．

5）下野の百姓一揆

下野の百姓一揆は1868年（慶応4年）3月29日の安塚村の打ち壊しに始まる世直し一揆であり，近隣の石橋宿，雀宮宿（現宇都宮市），楡木宿，鹿沼へと広がっていった．

考察

安塚の戦いは戊辰戦争の中で，最初の大きな戦いであり，傷病兵も多く，病院の医師や歩卒も不足し，女性看病人を求めた．また，「雇用」した背景には，同年3月頃から下野一帯に生じた農民一揆があり，無報酬で住民を用いることは危険であったためと考えられる．金銭を支払って「雇用」できるのは，一定以下の身分の者の可能性が高く，町人，農民の妻子の可能性が高い．

安塚の戦いまでは，大きな戦闘も少ないため，一定の場所に「病院」を設置する機会がなく，壬生の病院が宇都宮城の攻防戦，それに続く，日光，今市の戦いが会津の戦いまでの重要な拠点として機能したことにより，最初の女性看病人が雇用されたと考えられる．

結論

1868年（慶応4年）4月24日以前に，女性看病人を雇用する機会はほとんどなく，壬生城内で雇用された9人が日本最初の女性看病人，すなわち日本最初の看護婦である．日本で初めて雇用された女性看病人は壬生近辺の農民や町民の子女である可能性が高い．この女性看病人は未訓練であり，その後の看護婦の誕生には寄与していない．

（平成26年12月六史学会合同例会）

宇田川榕菴の写生図と植物標本

加藤　僖重

今春3月，大阪道修町にある公益財団法人 武田科学振興財団杏雨書屋より『杏雨書屋所蔵 宇田川榕菴植物学資料の研究』（全768ページ）が刊行された．

本書は宇田川榕菴の植物学関連資料の調査報告書で，榕菴がオランダ語やドイツ語の原典と格闘しながらより的確な日本語の学術用語を創案していった過程をショメール，ルードヴィッヒ，イペイらの原本と対照させることによって明らかにしている．これによって幕末，本草学から植物学への転換の道筋の一つが明らかにされたと考えられる．

本書は次の三部からなる：

第一部　資料と研究

Ⅰ　宇田川榕菴『菩多尼訶経』の研究
　　松田　清・遠藤正治・加藤僖重・幸田正孝

Ⅱ　伊藤圭介「二十四綱解」の研究
　　遠藤正治・加藤僖重・幸田正孝・松田　清

Ⅲ　宇田川榕菴『植学啓原』の研究
　　遠藤正治・加藤僖重・幸田正孝・松田　清

Ⅳ　宇田川榕菴『百綱譜』の研究
　　加藤僖重・遠藤正治・幸田正孝・松田　清

Ⅴ　『榕菴写生植物図譜』
　　加藤僖重・遠藤正治・幸田正孝・松田　清

Ⅵ　宇田川榕菴の諸稿本の紹介
　一　『律鐸微弗漢垤布蘭天』の紹介　松田　清
　二　『植物精撰』の紹介　幸田正孝
　三　『榕菴本草名彙』の紹介　遠藤正治
　四　『百綱全譜』の紹介　加藤僖重

第二部　論考

Ⅰ　宇田川榕菴の学んだオランダ啓蒙期博物家たち　松田　清

Ⅱ　西洋植物学の性格　加藤僖重

Ⅲ　榕菴・圭介の著作出版過程　幸田正孝

年譜

宇田川榕菴の年譜　幸田正孝

本書は松田　清，遠藤正治，加藤僖重，幸田正孝の四人の共著であるが，書き手の一人として小生が担当した宇田川榕菴の『百綱譜』（杏雨書屋図書番号　旧乾 6508）とその図版の紹介・解説及びオランダ国立植物学標本館が所蔵しているシーボルトコレクション中に見出した榕菴作製標本の幾つかを紹介した．

榕菴は多数の写生図譜を残しているが，杏雨書屋所蔵の『榕菴写生植物図譜』は207mm×165mm，左綴じオランダ製洋紙（Kranz de Charo & Comp 製）の写生画帖である．見開き中央上部に Einige japansche Planten（日本植物若干）と榕菴自身がペン書しているが，図版は87点ある．それらをいくつかを紹介した．

1　**榕菴によるオランダ語表記の和名及びシーボルトの手による学名（ラテン語）があるもの**（例　図1 クサボケ，図2 サルトリイバラ，図18 シランなど）

2　**榕菴の観察視点がわかるもの**（図31 ミカン類の皮など）

3　**全体図ばかりでなく，部分図も描かれている**（図9 ムラサキオモト，図10 オオツワブキ，図22 ホウノキなど）

4　**奇品を描いている**（図5 変化朝顔）

5　**参考文献を挙げている**（図26 ハカマカズラ，図66 豆類の蝶形花など）

6　**花の各部分にオランダ語で説明をいれている**（図35 サンシュウユなど）

7　**花と果実をそれぞれ描いている**（例　図33 シキミの果実，34 シキミの花）

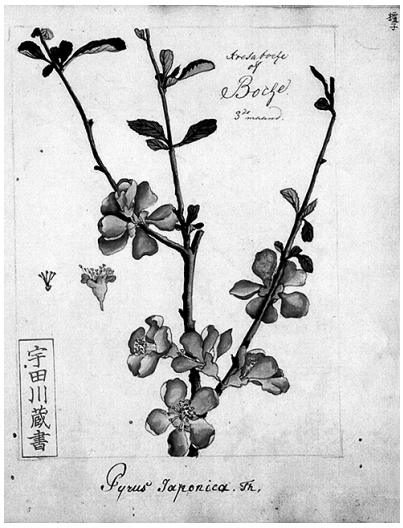


図1　クサボケ（*Chaenomeles japonica* Lindl.）バラ科．図版下部にシーボルトが学名 Pyrus japonica Th. を記入している．

8　印葉図を利用している（例　図35 ヤブコウジ，図40 ヤマブキなど）

オランダ国立植物学標本館（ライデン市）所蔵のシーボルトコレクションは演者が調べた腊葉標本だけでも1万数千点を超すが，そのかなりの部分はシーボルト本人作製標本ではなく，当時の日本人から寄贈された標本である．その中でもっとも標本数が多いのは伊藤圭介であるが，今回の『杏雨書屋所蔵 宇田川榕菴植物学資料の研究』が刊行されるにあたってシーボルトコレクションを再検討したところ，以下の榕菴作製の標本8点を見つけ，その中の2点（ムベ，ギョウジャノミズ）を紹介した．

1　イナモリソウ（*Pseudotaxis depressa* Miq.）アカネ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 908, 220–29 コード番号 <L 0063268>

2　ハゴロモソウ（*Achillea periodica* Ledeb.）キク科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 900, 66–642 コード番号 <L 0103721>

3　ヤマハハコ（*Anaphalis cinomoea* DC）キク科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 900, 68–182 コード番号 <L 0103746>

4　エゾキヌタサウ（*Galium boreale* L. var. *japonica* Miq.）アカネ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 908, 213–1021 コード番号 <L 0104437>

5　マメザクラ（*Cerasus apetala* S. et Z.）バラ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 905, 26–96 コード番号 <L 0175819>

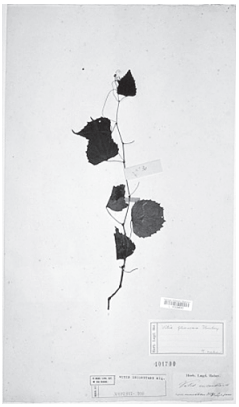
6　ムベ（*Rajania hexaphylla* Th.）アケビ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 899, 33–393 コード番号 <L 0175984>

7　マユミ（*Evonymus Hamiltonianus* Wall.）ニシキギ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 899, 174–80

8　ギョウジャノミズ（*Vitia inconstanas* Miq.）ブドウ科
　標本番号 HERB. LUGD. BAT. No. 897, 347–300 コード番号 <L 0328840>

（平成26年12月六史学会合同例会）

ムベ（*Rajania hexaphylla* Th.）



ギョウジャノミズ（*Vitis inconstans* Miq.）